

## 4-2 2019年度公立入試に向けて傾向と対策

### ◆理科 『なぜ』を重視した学習が重要!!』



**夏までに** 中1・中2の学習範囲を徹底的に復習しなければなりません。まずは一問一答形式で、**用語や頻出の実験の手順、原理・原則などを理解**するまで解きこむことが重要です。

**9～12月** この時期に中3の学習範囲のフォローに重点を置かなければなりません。難度が高く頻出の「**仕事とエネルギー**」「**水溶液とイオン**」を特に重点的に学習しましょう。他県入試を用いた実戦力の養成も始める頃です。

**冬～直前** 入試と同形式の問題で**処理能力を上げる**必要があります。難関校対策には、難度の高い計算・記述問題への取り組みがポイントとなります。

**まとめ** 難度の高い問題が出題されるため、他県入試のややレベルが高い、**実戦的な問題での対策**が効果的となります。難関校志望者はより多くの計算問題・記述問題に取り組みましょう。

### ◆社会 『総合的な知識の定着が不可欠!!』

**夏までに** **地理・歴史分野を徹底的に**復習しなければなりません。一問一答形式の問題を集中的に解いて実力を上げましょう。この時期までに**一通りの範囲を解けるよう**しておかなければなりません。

**9～12月** 他県入試を用いて、**資料・図版の読み取り**や**長文選択肢**の処理に慣れることが必要です。比較的解きやすい**地理の記述問題対策**はこの時期に完成させましょう。

**冬～直前** 難化傾向になる公民を短期間で仕上げるタイミングです。**用語の理解**だけでなく、**仕組み**の理解にも重点を置いた学習が必要となります。難関校対策には**記述問題の徹底**が欠かせません。

**まとめ** バランスのとれた実力を養成するため、他県の入試問題の演習が効果的です。やや難化傾向にある地理や**時事問題**が大きく関わってくる公民は、**新傾向問題**について重点的に対策しておく必要があります。

